

どんど焼き

徳山高校鹿野分校
閉校記念展示





鹿野天神祭

灯ろう流し

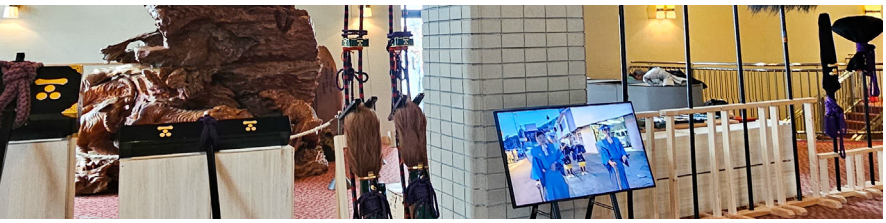




大潮地区の
まるやまドーナツ

キャンプサミット
in 鹿野





しゅうなん
郷土伝統芸能まつり

漢陽寺庭園
登録記念物プレート
除幕式



2023

まちづくり応援団えーる

鹿野を応援する地域情報紙
えーる!
2023.01
Vol.87



積み重ねた３６年
走り続ける思い

新年あけましておめでとうございます。本年も１年、まちづくり応援団えーるをよろしくお願いいたします。

さて、１月、特に年始といえば、箱根駅伝を始めマラソン大会を想像される方も多いと思います。今月号の「えーる！」では、49歳から走り始め、85歳になる今でも走り続けている和田武さんにお話をうかがいました。

健康のために走り続けているという和田さんに、普段どんなコースを走っているのか聞いてみると、今井の農業道路を通って、中津から狐原を抜け、国道沿いを走って戻ったり、仁保津と高瀬の境にある熊坂峠まで行ったり、坂根のバス停で折り返して帰るなど、どれも10キロメートル以上走る長距離コースばかり。体調がすぐれないときでも、5～6キロメートルは走っているというお話に、ただただ驚きです。車で和田さんが走っているというコースを巡ってみると、距離の長さを実感することができました。

また、多くの大会にも出場された和田さんに、鹿野の中でも大会があったのですか、と尋ねてみると、町制45周年記念に行われたという自治会対抗駅伝のことを教えていただきました。鹿野の町なかを走り抜けるこの大会では、地区のみんなで練習を重ね、優勝を勝ち取ったそうです。

この他にも、走ることについてたくさんの思いをうかがうことができました。裏面では、和田さんが走り続ける、その思いをお伝えします。



●自治会対抗駅伝の様子。
先頭を走っているのは、若かりし頃の和田さんです

発行　まちづくり応援団えーる（https://yell.link/）

\ Hurray! /

走り続ける思いに

えーる！

子どもの頃から、運動会などで走ることは得意だったという和田さんですが、陸上部などに所属することはなくあくまで我流で、ずっと走り続けてきたのだとか。

健康のため、という思いから走り始めた和田さんですが、当初は1キロか2キロ走るのがやっとだったそうです。しかし、苦しくても続けているうち、だんだん走ることができる距離が伸びて、もっと速く、もっと長く走りたいと思うようになってきたそうです。もっと速く、もっと長く……その思いが高じて、大会にも出場するようになったのだとか。

お話をうかがった部屋には、旧新南陽市や美祢市、遠くはなんと韓国まで、さまざまな場所で開かれた大会の賞状が飾られていました。75歳を迎える頃まで続けていたという大会出場の軌跡を感じることができました。

印象に残っている大会は、秋吉台のハーフマラソンと語る和田さん。アップダウンの激しかったコースを走っていると、元アスリートの増田明美さんと一緒になり、テレビにも映ったことがあるそうです。「テレビに映るから笑顔を見せて、とお願いされましたが、走りながらできつかったので、なかなか大変でした」と笑顔で当時のエピソードを語ってくれました。

大会出場こそしていないものの、今もランニングを続ける和田さんの原動力は、「健康を維持するため」なのだとか。走り続けるための体調管理をしっかりと行っているため、風邪も病気もせず、健康を保ち続けているそうです。



「走っている間は苦しいけれども、走ることがやみつきになるように感じます。走っていないと、逆に足腰が痛くなるような気がします」と、走ることが生活の一部となっていることを感じさせます。

「走っている時は景色を楽しんだり、友人と出会えば足を止めて話したりしながら、無理なく走っています」と語る和田さん。歳を取って、ノンストップで走るのは辛いです、とは言うものの、走っている最中で神社に立ち寄って石段を駆け上がったり、アップダウンのあるコースを選んで体に負荷をかけたりと、ただ走るだけではなく、きついコースを走ることで、体を鍛えていることをうかがわせてくれました。

そんな和田さんに座右の銘をお聞きすると「忍」という文字を挙げてくださいました。暴飲暴食を控えて体を整えたり、辛くても我慢して続けていくことで、前向きになることができるという和田さんには、この言葉がぴったりだな、と感じました。

「これからも、走ることができる間はずっと走ろうと思います」と思いを語る和田さん。はつらつとした様子でインタビューに応じていただいた様子に、こちらまで元気をもらえるような気がしました。

これからも、元気に走り続けてほしいなと思います！

鹿野を応援する地域情報紙
えーる!
2023.2
Vol.88



●皇族もご出席しての都市緑化機構会長賞授賞式

めざすは「日本一のカフェの里」
鹿野の風プロジェクトの挑戦

今冬は10年に一度と言われる寒波に襲われましたが、皆さんはいかがお過ごしですか。

今月号の「えーる!」は、昨年「都市緑化機構会長賞」「あしたのまち・くらしづくり活動賞」「山口県農山村振興賞」という3つの賞を受賞した、鹿野の風プロジェクトの活動をご紹介します。

金峰地区の、防長の吉野をつくる会さんや、市が後押しする地域の夢プランに取り組む、明るく元気な鹿野をつくる会さんや大潮・渋川地区の皆さんなど、多くの方々が活動する中、鹿野に新しい風を呼び込み、鹿野の外に鹿野の風を吹かせたい、という思いから、平成23年に発足した鹿野の風プロジェクト。

代表の福田さんに受賞の思いをうかがうと「さまざまな挑戦をしながら進めてきたことに、受賞という形でエールをもらうことができたと思います」と、笑顔を見せてくださいました。

活動の目的の一つに、鹿野のイメージアップがあるんです、と福田さんは語ります。

「久しぶりに鹿野を訪れた同級生が、町なかに空き地が増え、家が傾いているのを見て驚いた、と言っていました。鹿野の体力が残っている今の間に、なんとかしなければという思いで、活動をしています」と思いを話してくださいました。

そんな思いを原動力に活動し、受賞した3つの賞。「受賞に至ったのは、プロジェクトに関わってきた、たくさんの人が思いを持ってがんばってきたからこそ。そんな皆さんを代表して、賞を受け取ったにすぎません」福田さんはそう語ります。

たくさんの人が関わって進む鹿野の風プロジェクト。その詳細については、次ページでより詳しくご紹介します。



●トリプル受賞は、周南市長へも報告されました

発行　まちづくり応援団えーる（https://yell.link/）



●有志で造りあげているわくわくガーデン


●山野草のエキ整備

鹿野の風に \Hurray!/ えーる！

鹿野の風プロジェクトの出発点は、鹿野の飲食店が連携してさまざまなメニューを提供する企画からでした。「正直なところ、この頃は軽い気持ちで始めていたのですが、さまざまな人の意見を聞く中、その気持ちに変化が起きてきました」と話す福田さん。当時から目的は鹿野に訪れる人、いわゆる交流人口を増やすことを目標にしていたのですが、目先の交流人口だけではなく、もっと未来、鹿野の将来を見据えて行動しようと決意され、そのための計画が始まりました。

自動車道の通る鹿野は、広島や福岡といった近隣の大都市圏からもアクセスが良い場所にあります。都会で癒しや非日常を求める人に向け「いってみたい、関わってみたい、住んでみたい」と思われる鹿野の町をつくるための活動。それは、10年前から始まった、鹿野に木漏れ日を生み出すための雑木の植樹、木漏れ日の下で憩うためのベンチ設置や、花や緑が生み出すオープンガーデンなど、さまざまな試みとして形になっていっています。昨年の「えーる！」でも紹介した、中津地区の「わくわくガーデン」も、鹿野の風プロジェクトの協力のもと、有志の手によって一から整地され、コミュニティの場として機能するようになればと期待されています。

故・伊藤芳高さんが切り拓いた「山野草のエキ」の整備を行う保存会としての活動には、その主旨に賛同した多くの企業が助成金を寄せ、それによって整備がどんどん進んでいます。いつ訪れても見学に来た人の姿を見ることができるこの場所は、まさに癒しと非日常を提供し、遠くから人が集まる場所になっているように思います。

「一過性のイベントも大事ですが、一年を通して人やお金、情報が循環する仕組みを構築できないかと考えて進めているのが、個人経営の小さなカフェが集い、一カ所ではなくたくさんのお店で人が循環する里、日本一のカフェの里をつくる計画です。鹿野にしかない空気感を生み出し、日本全国に鹿野という地域があると知らしめたい」と語る福田さん。鹿野に新しい風を吹かせる活動に、心からエールを送りたいと思います。



●雑木の植栽


●設置されたベンチと福田さん

鹿野を応援する地域情報紙
えーる！
2023.03
Vol.89



７４年の歴史に幕
徳山高等学校鹿野分校閉校記念展示

雪が降る日が何度もあるなど、今年は特に寒さが厳しいですね。今月号の「えーる！」では、今年度で閉校になる徳山高等学校鹿野分校の閉校記念展示の様子をご紹介します。

今から74年前の昭和24年に、山口県立都濃高等学校定時制鹿野分校として開設されたこの学校は、昭和51年には鹿野高等学校として独立しました。当時はサヤノ原に校舎があったそうですから、今のコアプラザかののの辺りに校舎があったんですね。

昭和54年に現在の場所に校舎が移転し、平成20年に徳山高校の分校となった鹿野高校。現在は、3年生5人が在籍するのみとなっています。そしてその3年生も令和4年度で卒業となることから、その長い歴史に幕を下ろすことになったんですね。

閉校記念展示は、令和4年末にも行われていましたが、年末年始で訪れることができなかったという声もあり、2月10日から16日までの間、2度目の展示が行われました。

会場に到着し、まず目に飛び込んできたのは、広々としたグラウンド！ たくさんの運動を一度にやっても、十分な余裕がある広さだと感じました。プールもあり、思い切り体を動かせる環境が整っている学校だと感じました。

校内は一部を除いて公開されていて、校舎内を歩き回ることができました。校舎の一室を利用した展示では、各年度ごとの卒業写真や行事の写真などが、壁にずらりと貼りだされていましたよ。

展示の中で、特に目を惹いたのはホッケー部の資料です。昭和36年の創部以来男女ともにインターハイに何度も出場経験を持つ強豪校だった鹿野分校の積み重ねてきた歴史が、いくつも並べられた長机にズラリと並んだアルバムにおさめられていました。



●大きなグラウンドの先には、鹿野の山々が広がっていました。空も、とても広く感じられました。

発行 まちづくり応援団えーる（ https://yell.link/ ）



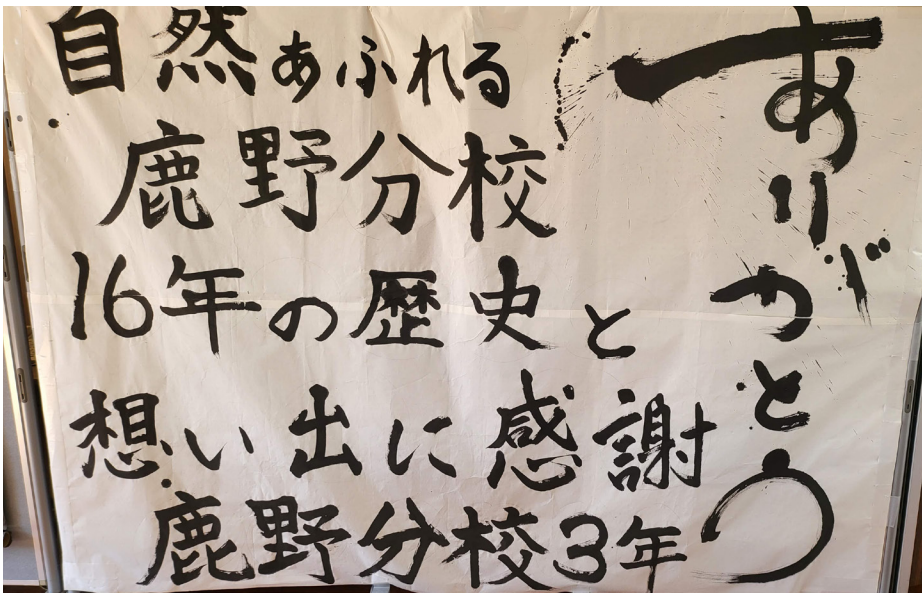
●校舎は後ろに山が並び、敷地内にも生垣がある など、とてもたくさんの緑に囲まれています。





●校訓「創 健 愛」の石碑。この校訓は、昭和61年に制定されました。

写真で見た 鹿野分校





●広々とした中庭で目を引くのは、3階建ての校舎に並ぶほどの巨木です。



●ホッケー部のユニフォームや、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の記念メダルも展示されていました。

鹿野を応援する地域情報紙
えーる!
2023.04
Vol.90



造るみんなも“わくわく”！ わくわくガーデン、作庭中！

暖かい日差しの日が増えてきて、もうすっかり春ですね。今月の「えーる！」では、4月から2カ月間開催される「里山オープンガーデンかの」にも出展される、中津地区に造られている「わくわくガーデン」をご紹介します。

昨年3月から始まり、2年目を迎えた庭造り。毎月定期的に有志が集まり、庭の整備を行っています。

取材をした日も、花を植えるための土作りや、ピザ窯の基礎部分を作るため、鹿野内外から9人が集まりました。

軽トラックで土を運んでならす人、ブロックを積んで「扉が付くところはきちんとせんにゃあいけん」とメジャーで計りながら、細かなズレを修正する人、川に降りる階段を整備し、大きな石を掘り返して並べ直す人……それぞれがこの庭を造るためにできることをしていました。重労働ながら、皆さんとても楽しそうに作業をしていましたよ。


●休憩中も、コーヒー片手に完成予想図の共有です。

「ピザ窯ができたら、地域の人を呼んでみんなでピザを食べるのもいいですね。地域の人にも、この庭のことを知ってもらいたいと思います」「庭を造っている自分が、ワクワク、楽しみながら庭を造っています」作業に参加した皆さんは、庭造りについての思いをそう語ります。

休憩時間になると、コーヒーやしぶかわ工房の方が作ったお餅で一息。わくわくガーデン発起人の一人である田中さんは「同じ作業をして、休憩には同じもので一休みする。これも楽しさの一つですね」と笑顔を見せてくださいました。

休憩中にも庭のイメージについて話し合いをする皆さん。同じ思いを持って鹿野に集まったメンバーが、一緒になって造り上げる庭には、強い熱意と、たくさんの笑顔があふれているように感じました。

発行 まちづくり応援団えーる（ https://yell.link/ ）



●庭園内の蔵も、すてきに生まれ変わる予定です！

わくわく
ガーデンに

\Hurray!/

えーる！

「この庭が、こどもたちや孫の遊び場になって、いろいろな思い出を作ってほしいです」……田中さんが抱いていた思いは、庭造りという形で現実になりつつあります。

「車椅子の人でも楽しめるように、園内の通路を整備し、花壇には床面を高くしたレイズドベッドを取り入れたいと思います。目で見て花を楽しんでもらい、花の香りを楽しんでもらって、さらに手で触って、感触を楽しんでもらえたらいいですね」と、さまざまな人が楽しめるような工夫を持たせたいという思いを語ってくださいました。



こうした思いや、作庭に関わるたくさんの人のワクワクが集まったこの庭は、実はまだ完成には至っていません。

オープンガーデンの期間中も作庭作業は続き、皆さんも自由に参加し、育てることができる自由参加型のガーデンにする計画なのだとか。

見て楽しむだけでなく、庭を造るという形でもイベントに参加できるのは、とてもワクワクしますね。

興味がある人は、鹿野の風プロジェクト代表の福田さん☎０８０（６３１－４０７９）までお問い合わせください。



里山まるごと花と雑木による木漏れ日計画

里山オープンガーデンかの2023

2023.4.1(土)～5.31(水)

【お問い合わせ】
「鹿野の風」プロジェクト・オープンガーデン事務局
山口県周南市鹿野大潮659-1 ☎080-6311-4079(福田)

YS市風コミュニティー財団の協力により
里山オープンガーデンは開催されています。
【後援】周南市／周南観光コンベンション協会

里山オープンガーデンかの 2023

毎年４月から開催されている「里山オープンガーデンかの」。今回紹介したわくわくガーデンも、この催しに参加します。曜日限定で開放される庭も含め、今年は２４の庭が参加予定です。

色とりどりの花はもちろん、木々の緑や、敷き詰められた石、さまざまな要素で造られた庭たちは、同じものが一つとしてない個性あふれるものばかり。２カ月という長い開催期間のうちに、同じ庭でも咲いている花が変わって雰囲気が違っているかも！？

一度だけでなく、何度も庭を訪れてみてもおもしろそうですよ。

開催期間　４月１日（土）～５月３１日（水）
庭によりますが、基本１０時～１６時開園です。
各所に配布されているチラシや、インターネットで詳しい情報を確認できます☞

鹿野を応援する地域情報紙
えーる！
2023.05
Vol.91



つながり、ひろがる 大潮小で“かくれがマルシェ”

あちこちで田畑を耕している人を見かけるようになり、春が来たんだなと感じます。

今月号の「えーる！」では、4月16日に開催されたかくれがマルシェについてご紹介します。

冬季を除き毎月開催されているかくれがマルシェは今回で15回目。今回は、会場のひとつに旧大潮小学校校舎が使用されています。レトロな雰囲気に、いつか会場として使ってみたいな……そう思っている気持ちを大潮地区の人に伝えたところ、地区からも「やってみよう」という声が上がり、地区との協力を得て実現したのだとか。

旧大潮小学校には約20、他の会場に約30、なんと50を超える参加者を迎えて開催されました！　出店する人が知り合いにも声をかけて、やってみようという人が参加して……と、どんどん参加者が増えてきたのだとか。

「初めて参加する人も、チャレンジする、ぐらいのつもり参加してくれています」と、主催の岡崎さんは語ります。

もちろん、かくれがマルシェは旧大潮小学校だけにはとどまらず、鹿野地域の各地で開催されています。

岡崎さんは「会場が各地にあれば、鹿野じゅうを見て回ってもらえます。たくさんの『かくれが』を見つけてもらって鹿野のファンになってもらいたいですね。各地で出店する皆さんにも鹿野のことを知ってもらいたいです」と思いを語ってくれました。

大潮地区の皆さんや、出店者の皆さん……たくさんの人がつながり、大きく広がっていく、かくれがマルシェ。

「これから、体験型マルシェにしていくのもいいなと思います。鹿野でしか体験できないことをしていきたいですね」15回を迎えたかくれがマルシェ。その挑戦は、これからも続いていきそうですね。

旧大潮小学校以外も、会場はにぎやかでした！


●旧マルタ会場


●旧活鮮ストア会場

発行　まちづくり応援団えーる（ https://yell.link/ ）

大潮小に \Hurray!/ えーる！

大潮小学校会場に到着してまず驚いたのは、駐車場として使用されているグラウンドに、ずらっと並んだ自動車！　有志の皆さんによるスタッフの誘導で、なんとか車を止めて会場に入ることができました。

玄関先には、置き場所を探さなければならないほどの靴が並び、開始から1時間ほどなのに、たくさんの人がこの場所を訪れていることを感じました。

廊下にも、店舗が並ぶ教室の中にも、訪れたお客さんがあふれていました。まっすぐ歩くのも大変なぐらい、たくさんの人がいましたよ。

鹿野のおいしいお米や、わさび漬けの試食もできました。鹿野のお米は一口でも感動するぐらいのおいしさで、思わずお米を買って帰りました。

イベントを運営するａｓｉｓ（アズィズ）のお２人に取材をしようと思っていると、雑誌の取材に来られている記者さんがいらっしゃっていました。お２人の活動が、たくさんの人に注目され、元気を与えているんだなと、こちらも嬉しくなってきましたよ。



●教室の中も人でいっぱい！



●ローカルジャーナリストの重原さん（右）と取材を受けるasisのお２人



●試食で配布されたお米とわさび漬け



●学校の雰囲気を感じる廊下



●青空の下の校舎

鹿野を応援する地域情報紙
えーる！
2023.06
Vol.92



鹿野に無限の可能性
おふく堂オープン！

梅雨入りも近く、稲作も進んで夏が近づいていることを感じますね。今月号の「えーる！」は、福岡からUターンし、5月7日に大地庵で「健美処おふく堂」をオープンした整体師で、店主の福本ちはるさんと福本泰久さんにお話をうかがいました。

「運動をしていた頃に周囲の人が怪我をして、手術をして復帰してくると、多くの人が痛みを訴えていました。それを良くしてあげたい、という思いから整体を学び始めました」ときっかけを語るちはるさん。整体師としての活動を始めたのは13年前で、当時は広島の先生の下で働きつつ、各地に出張して施術を行っていらっしゃいました。鹿野にも訪れていて、実はわたしも施術を受けていたことがあるんですよ。

その後、店舗を構えずに出張専門で施術を行う整体師として独立し、8年前、福岡市で開業されました。

そんな福本さんが鹿野に帰ってきたのは、お父さんが忙しくされていることを聞いたことや、新型コロナウイルスの影響があったのだとか。しかし、決して後ろ向きではなく「例えば長野山の開発など、鹿野にはたくさんの可能性が秘められている、と感じます。自分たちにも、何かできないだろうかと考えています」と、前向きな気持を話してくれました。

また、ちはるさんのお父さんからさまざまな鹿野の話を聞き、鹿野に移住することに大変乗り気になったという泰久さんも「鹿野にはおもしろさしかない。やれることは、なんでもしたいと思っていますし、自分も鹿野でやりたいと思っていることを考えています」と語ります。

オープンしたばかりのおふく堂。お話を聞き、こちらもワクワクしてくるような思いがしました。


●親戚のお宅を改装したという店内は、木のぬくもりを感じる雰囲気でした

発行 まちづくり応援団えーる（ https://yell.link/ ）

施術を受けてきました！

取材にあわせ、福本さんに施術をしていただきました。体験も取材のうちというと聞こえはいいのですが、体がぼろぼろだったこともあり……。福本さんの思いをうかがいながら、体を癒してまいりました。







福本さんの施術のモットーは、患者に自分の体の状態を知ってもらうことなのだとか。「なぜ体が悪いのか、その原因を知り、伝えたうえで、それを直していくようにしています」と語るとおり、施術前にはじっくりとカウンセリングが行われ、痛むところや気になることなどを、具体的に、かつ細かなところまで確認していただきました。施術が開始された後も、体のゆがみや不調について教えていただきながら、全身をしっかり診ていただきました。

おふく堂は全身整体コースの他、妊娠中期～後期の人におすすめのマタニティー全身整体コースや産後全身整体コースなど、特に産前産後の女性に向けた施術があるのが特徴です。

その他にも、オイルトリートメントや頭皮の血行を促進するドライヘッドスパなど、さまざまなコースが用意されています。自身の体調や気になる場所に合わせて、いろいろなコースを考えてみるのもよさそうですね。

施術を受けて体を整えつつ、家に帰ってからアドバイスを実行して体調を保って、健康な体を作っていけそうだなと感じました。

おふく堂で施術を受けてみませんか

おふく堂は完全予約制。施術を受けたいときは、ホームページの「ご予約」から、電話・専用予約フォーム・LINE・楽天ビューティ・minimo の予約サイトに飛びますので、どこからでも予約できますよ。

電話予約は

☎ 080-6707-0290

まで！

鹿野を応援する地域情報紙
えーる！
2023.07
Vol.93



大潮のホタル、初夏に輝く

天気はなかなか晴れ間を見せず、梅雨明けはまだまだ遠いな、と感じますね。

今月号の「えーる！」は、6月24日に大潮地区で開催された大潮ホタルまつりをご紹介します。

毎年、ホタルの舞う6月に行われている大潮ホタルまつりは、今回で18回目を迎えます。今年は、コロナ禍を超え3年ぶりに開催されることとなりました。

イベント開催にあわせ、大潮地区の皆さんが会場や蛍公園の草刈りを行ってくださいました。たくさんのご配慮をいただいているからこそ、来場したわたしたちは、大潮ホタルまつりを気持ちよく楽しむことができるんですね。

思わず見惚れてしまうようなホタルが舞い飛ぶ環境が維持されているのも、大潮地区の皆さんによる保全活動のたまもの。ホタルの舞う川を守るために、さまざまな活動に取り組まれているのだとか。

ホタル舞う源流へ

大潮地区の皆さんによって守られたホタルは、イベントの日にもたくさん舞いわたしたちの目を楽しませてくれました。

ホタルを観賞するため、旧大潮小学校の手前、錦川源流の碑の近くにある川にやってきました。

明かりがない暗闇の中、足元がおぼつかず、そろそろと歩きながら川べりまで到着し、周囲を見回してみると……まるで星空のようにたくさんのホタルが舞い飛んでいました！

真っ暗になった川向こうの森には、いくつも緑色の光を放つホタルが飛び交っていました。子どもの頃から、ホタルを毎年のように見ていたわたしでも、思わず見惚れるほどのホタルがいたんですよ。

川辺では、たくさんの人がカメラを構えたり、ホタルを眺めていたりと、思い思いにホタルを楽しんでいました。これからも、たくさんのホタルの舞う川があり続けるといいな、と思います。



●ホタルを撮影した「錦川源流の碑」付近

発行 まちづくり応援団えーる（ https://yell.link/ ）

大潮ホタルまつりを歩く



17時から開催された大潮ホタルまつり。会場が近づくと、周囲は自動車でいっぱい！　なんとか離れた場所に駐車スペースを確保できたので、会場まで、ゆっくり歩いていくことにしました。

会場が近づいてくると、すれ違った友人から「会場は人でいっぱいだよ」という話があって、会場はどんな状況なんだろう……と、ちょっとワクワクしてきました。

到着した会場は、グラウンドから、校舎まで、たくさんの人が集まっていました！　講堂を会場にして開催されたミニコンサートの音楽がスピーカーから流され、大潮田舎の店のバザーやキッチンカーに、たくさんの人が並んでいました。

鹿野に住む人もたくさん来場していましたが、それ以上に、鹿野の外から来場した人がいるように感じました。

キッチンカーで食事をしようと列に並び、真っ赤な夕焼けや、太陽が沈み切る寸前のマジックアワーを楽しんでいるうち、ついに周囲は真っ暗になりました。

旧大潮小校舎では、鹿野の内外から、多くのお店がマルシェに参加しました。暗くなれば電気をつけるので、校舎が明るく輝きだします。暗い中に明かりが灯ると、夜のおまつりにいるんだ！　というワクワクするような気持ちを高めてくれました。

すっかり周囲が暗くなって空を見上げると、緑色の明滅が目に留まりました。何かと思うと、それはホタルでした！

明かりのつく会場にも、ホタルが舞い飛んでいたんです。思わず空を見上げ、目の前で飛ぶホタルの光を追っていました。

にぎやかなまつりの会場でも、真っ暗な帰り道でも、たくさんのホタルを目にすることができて、とてもすてきな一夜になりました。



●きれいな夕焼けを見ることもできました



●講堂内ではミニコンサートが開催されました



●会場にはたくさんの人がやってきていました

鹿野を応援する地域情報紙
えーる！
2023.08
Vol.94



イーヨイシー！宿入奴、練り歩き

台風が来たり、暑い日が続いたり。厳しい夏ですが、皆さまはいかがお過ごしでしょうか？

今月号の「えーる！」は堤区奴保存会の皆さんと、保存会が行う宿入奴をご紹介します。

宿入奴は、参勤交代で宿場に入る前に行われた儀式を再現したもので、毎年7月30日に行われる鹿野天神祭で奉納されます。

明治20年頃、天神祭に奉納するため、防府市の右田毛利家から道具を購入したことが始まりといわれ、それ以降、天神祭の祭事準備や御神幸（菅原道真公に無実を伝える祭り）を担当する受け組が行う、大行司・小行司から要請を受けて、宿入奴の奉納を行うようになったと言われています。

62人で行う本揃宿入奴と20人で行う簡易宿入奴があり、昭和30年代までは本揃宿入奴が行われていましたが、近年では出演者の減少もあり、簡易宿入奴が奉納されているんですよ。

奴練習

7月に入ると、保存会の皆さんは鹿野総合体育館横のふれあい広場に集まって練習を行います。

実際に使う道具を手に、広場内を回りながら演技の練習を行うと、皆さん、暑さで汗びっしょり。そんな中でも、笑顔を交えつつ練習が続きます。

練習の合間をぬって、今年から宿入奴に参加した藤本さんに、参加しての感想をうかがいました。藤本さんは大きな傘を二人一組で投げ渡しながら歩く「手替り」を演じます。

手替りは演技が難しく、また体力が必要だと感じています、と語る藤本さんは難しい手替りの技を見事に習得。本番の練り歩きでもすてきな演技を披露されていましたよ。

忙しい中の練習を重ねて演技を磨いた奴保存会の練り歩きの様子は、次のページでご紹介します。



●練習中の藤本さん



●練習中の皆さん

発行 まちづくり応援団えーる（ https://yell.link/ ）

天神祭当日。まだ陽の高いうちから、コアプラザかのので宿入奴の準備が始まりました。化粧して大きなヒゲを描いた奴役の人や、武士や殿様に扮する人、あっという間に準備が進んでいきます。

19時前になり、スタート地点の坂本酒店さん前から演技が始まりました。2人でかつぐ挟箱（はさみばこ）役が「イーヨイシー」と声を掛けると「ヤァーコリャサァノサ、ヤァーヨヤサァノサ」と他の人が応じ、演技をしながら練り歩きます。練り歩きのルートでは多くの人が見物し、練り歩きを撮影したり、演技が終わると拍手をしてくれたりしました。何度かの演技を行い、下市の御旅所にたどりつくと、御神幸や巨大な車を引く網代も到着。御旅所の周りは、奉納を行う人で賑わいました。奉納が終わるころには汗だくになっていましたが「やりきった！」と思える充実感を感じました。天神祭のため鹿野がひとつになり、盛り上がった一夜になりましたよ。







鹿野を応援する地域情報紙
えーる!
2023.09
Vol.95



写真はコミュニケーション
カメラでつながる“縁”

少しずつ暑さもやわらぎ、秋らしさが増してきましたね。

今月号の「えーる!」では、7月29日から8月4日まで鹿児島で開会した、全国高等学校総合文化祭（総文）に参加した斉藤こころさんをご紹介します。

総文とは「文化部のインターハイ」と呼ばれ、美術作品や演劇、音楽などを披露する場です。斉藤さんは、写真部門に応募した300点以上の作品から6~10位に該当する作品に与えられる優秀賞を、県内で唯一受賞しました。

受賞作の「秘め事」は、クラスメイトに協力してもらい、放課後の教室で、普段言えないようなことを語り合う2人を表現した作品なのだとか。

高校では写真美術部に所属し、顧問の先生にアドバイスをもらいながら写真の腕を磨いています。受賞作のタイトルも、顧問のアドバイスを得て、名付けられたものなんですよ。

「イベントで写真を撮ることもありますね。最近は、8月15日に開催された仮装盆踊りに行って写真を撮りました。ですが、私がよく撮影する対象は人物です。人の表情や雰囲気が好きでよく撮影しています」と語る斉藤さん。

高校生という立場だからこそ、相手に声をかけやすいし、撮影することを受け入れてもらいやすいんですよ、と語ります。

そんな斉藤さんに、写真とはあなたにとってどんなものですか、と聞くと「私にとって写真とはコミュニケーションツールなのだと考えています。春のことですが、桜を撮影しようと河川敷に行ったとき、親子3人でやって来ていた人がいました。許可をもらって撮影したとき『こちらに引っ越してきて間もないのですが、やさしく声を掛けてもらえて、引っ越して来てよかったです』と言われて、とても嬉しく感じました」と、すてきなエピソードを交えながら、思いを語ってくれました。

「次の目標は、11月に防府市で開催される、山口県の総合文化祭で、ベスト5に入賞することです」と意気込みを語る斉藤さん。今後の活躍に、期待が高まりますね！





優秀賞を受賞した「秘め事」と、賞状を手にする斉藤さん

発行 まちづくり応援団えーる（ https://yell.link/ ）

斉藤さんに \ Hurray! / えーる！



写真で優秀な成績を収めた斉藤さんですが、実は写真を始めたのは高校1年の9月から。写真を初めてから、まだ1年も過ぎていないのだとか。

「音楽が好きで、音楽部に所属して吹奏楽や軽音楽の活動をしています。クラリネットやトランペット、ベースギターの演奏をしているんですよ」

斉藤さんは、高校野球の山口県大会でも、トランペットを吹き野球部を応援していたのだとか。軽音楽活動としては、10月終わりに行われる文化祭で演奏する予定だと話します。

「将来は高校教師になるため勉強しています。音楽も写真も、趣味として続けていきたいですし、高校で部活動の顧問になることがあれば、今の経験が生きると思います」と将来の夢を語る斉藤さん。きっと将来、すてきな先生になっていると思います！



○今年の鹿野天神祭

斉藤さんに鹿野の中で好きなものはありますか、と聞くと、7月30日に行われた鹿野天神祭を挙げてくれました。今年は総文の方に参加していましたが、毎年のように会場を訪れているそうです。

「天神祭の日は、いつもは静かな鹿野の町なかが、たくさんの人でにぎわって違う雰囲気になるのがいいです」にぎやかな天神祭は、斉藤さんにとってすてきなイベントになっているんですね。





▲斉藤さんの撮影した写真をいただきました。
２人の表情がとてもすてきに撮れていますね！

鹿野を応援する地域情報紙
えーる！
2023.10
Vol.96



お月見、灯ろう、わんぱくフェスタ！

すっかり夜は冷え込むようになり、本格的に秋になってきましたね。今月号の「えーる！」は、9月から10月にかけて行われた、鹿野を盛り上げるイベントをご紹介します。

まずは9月30日、旧大潮小学校を会場に開催された「秋の夜長を楽しむお月見会」をご紹介します。

会場に到着すると、生演奏の音楽が聞こえてきました。あいにくの雨模様でしたが、音楽が響き、お店に人が集まる様子を見ていると、なんだかワクワクしてきます！

17時から始まったお月見会では、ハンドメイド品販売やワークショップ、写真撮影会などが校舎内で行われ、グラウンドではキッチンカーや、大潮田舎の店のブースが並び、イベントを彩りました。

腹ごしらえのためにグラウンドをうろうろしていると、大潮田舎の店ブースで新米のおにぎりを発見。



白米だけのおにぎりでも、ゆっくりかみしめると、とても甘い味がしました。何個でも食べたくなる味は、さすが鹿野のお米だな、と感じました！

周囲が暗くなってきたので、夜の校舎に入ってみます。こんな機会はなかなかありませんから、電気がつき、来場者でにぎわう校舎を歩くだけでも楽しい気持ちになってきました。

残念ながらお月見はできませんでしたが、中秋の名月になぞらえたのか、地域の皆さんによる餅つきが行われました。リズム良くもち米がつき上がり、完成したお餅は会場の皆さんにふるまわれました。

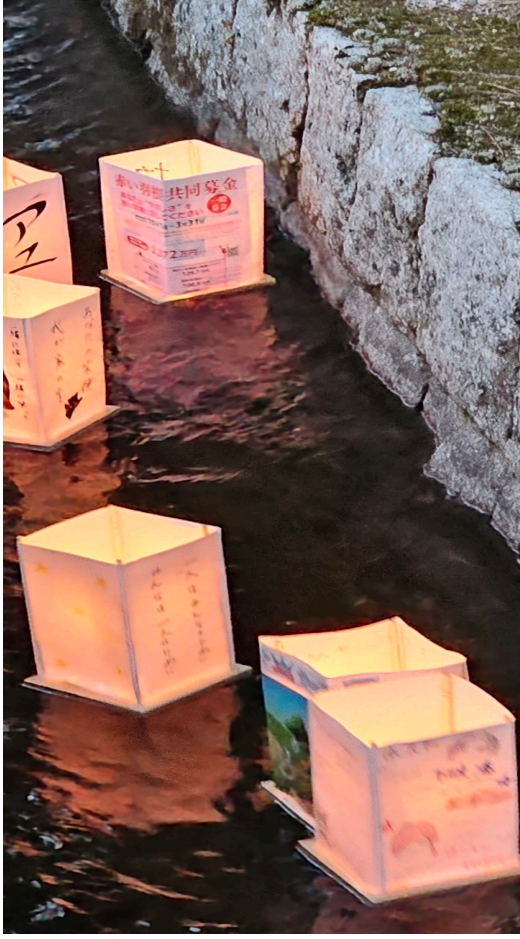


きな粉をつけて食べたお餅は、焼いたりゆでたりしたものとは違う独特の歯ごたえで、新鮮な食感でおいしかったですよ。

校舎のマルシェ、おいしいキッチンカー、地域のおいしいお米とお餅。旧大潮小学校を舞台にしたイベントには、たくさんの人と、笑顔があふれていました。

発行 まちづくり応援団えーる（ https://yell.link/ ）





灯ろう流しとわんぱくフェスタ



10月7日には、清流通りで灯ろう流しが行われました。コロナの終息を願って始められたこの催しには、さまざまな願いが描かれた手作りの灯ろうが寄せられました。

会場には多くの人が集まり、灯ろう流しが始まると、皆さんが流れていく灯ろうを追って歩き始めます。子どもたちも、自分たちが作った灯ろうを追いかけて歓声を上げていました。わたしも流れていく灯ろうに興奮して走り続け、たくさん写真を撮影させてもらいましたよ。

宮司さんの祝詞の後、お焚き上げが行われました。すっかり暗くなるまで、大人も子どももたくさんの人が会場に残り、焚き上げられる灯ろうを見送っていましたよ。

翌日の8日は、せせらぎパークでわんぱくフェスタが久しぶりに開催されました。会場そばの川は、早い時間から釣り糸を垂らす人たちでいっぱい！

小雨の中ながら、子どもたちは芝生広場で駆け回ったり、親子で川釣りを楽しんだり、野外のイベントを目いっぱい堪能しているようでした。

鹿野産和牛と野菜を楽しめるカントリー焼きなど、たくさん食べ物が販売されていて、お腹も大満足。最後は餅まきが行われ、集まった人たちは「こっちこっち！」とアピールしながら、まかれた餅やお菓子を拾っていましたよ。

鹿野は秋冬もイベントがたくさん。元気な鹿野を、これからも追いかけていきます！





鹿野を応援する地域情報紙
えーる！
2023.11
Vol.97



食を通して鹿野を発信
地域おこし協力隊　杉さんの夢

今年もあと2カ月を切りましたね。今月号の「えーる！」は、都市部から移住して地域協力活動を行いながら、その地域への定住定着を図る地域おこし協力隊として活動中の杉のどかさんを紹介します。

「祖父母が住んでいる鹿野で、いつか食に関わることをしたいと思っていたところに、ちょうど地域おこし協力隊の募集があり、いい機会と思い応募しました」

5月に大潮に着任した杉さんは、大潮田舎の店の皆さんと、おからを使った新製品として、ドーナツ開発に取り掛かりました。

「大潮田舎の店のおからは、とても美味しく、おからそのものでの販売もされていますし、おからサラダは人気商品です。そこで、現在未利用となっているおからの有効活用も兼ねた、大潮田舎の店のPRに繋がる新商品を作りたいと思ったんです。大潮田舎の店にはドライブやツーリングをする人が休憩に訪れますから、そうした人たちが簡単に食べられるものを考えたときに、ドーナツにしようという話になったんです」



ドーナツ開発は7月後半から始まり、9月にレシピが完成。イベントで試食をしてもらうなど、さまざまな声を聞きながら、開発を進めていきます。

「いろいろな声を聞きながら、冷めてもしっとりした食感で食べられるおからの量にたどり着きました」と語る杉さん。

9月下旬に行った大試食会を経て、10月15日に開催された「かのふるさとまつり」で、ドーナツがお披露目されました。

大試食会の中で出てきた案から「小腹におからっまるやまドーナツ」と名付けられた丸いドーナツ。旧大潮小学校の前に広がる、円山（まるやま）の名前がついたドーナツは、イベントのお昼には完売する大人気！　プレーンだけでなく、抹茶やきなこ、あん入り、などの味付けを楽しむことができますよ。このドーナツは、イベント出店時などを除き、主に毎週土曜日に大潮田舎の店で販売予定です。「小腹におからっシリーズは、今後も開発していきたいな、と思っています」とのこと。

今後の新作にも、期待大ですね！

発行　まちづくり応援団えーる（ https://yell.link/ ）

杉さんの思い出と鹿野への思い

祖父母の家が鹿野にあるという杉さんは、子どもの頃から鹿野に遊びに来ていたそうです。

「自治会の盆踊りや、家族や親せきで餅つきをしていたことがいい思い出です。せせらぎパークで遊んだり、10月のわんぱくフェスタに参加したりしたこともありますね」

杉さんは、地域おこし協力隊として関わっている大潮田舎の店にも、昔からよく行っていたのだとか。

「地域おこし協力隊として関わることになるなんて、不思議な縁を感じます」と笑顔で話してくれました。

昔からよく遊びに来た場所である鹿野で、今は地域おこし協力隊として大潮と関わる杉さんに、これからの夢をうかがってみました。

「鹿野には、伝統を守り続けてきた人たち、新たな挑戦をする人たちがいて、私の好きな言葉である『温故知新』がある町だな、と感じています。そんな鹿野には、たくさんの地域資源、食材だとか、自然だとか、そういうものがあると思います。食に関わること、カフェになるか、レストランになるか、それとも別の形になるか……方法は考えている最中ですが、食を通じて、鹿野の魅力である地域資源を発信していきたい、と考えています」

笑顔で夢を語る杉さんに、心からエールを送りたいと思います！



●盆踊り会場の公園



●大潮田舎の店



●せせらぎパークを流れる川



●わんぱくフェスタの様子



鹿野を応援する地域情報紙
えーる!
2023.12
Vol.98



「子どもは希望」未来をつくる鹿野人KANOAの思い

令和5年も、気付けばあとわずかで終わりそうですね。令和5年最後の「えーる!」は、子どもたちの「やってみたいこと」をかなえようとさまざまな活動を行っている、未来をつくる鹿野人KANOA（カノア）さんをご紹介します。

取材に応じていただいた大田さん（写真右）と宮本さん（写真左）、お仕事で、取材時には不在だった藤井さんの3人で結成されたKANOA。3人とも、結婚などで鹿野の外から移住して来られています。

「鹿野で暮らす子どもたちに、いろいろな経験をさせてあげたいと思い、子どもたちに『どんなことをしてみたい?』と聞く場を作って、1年間の活動プログラムを考えています。子どもたちからは『こんなことをしてみたい』という思いがホワイトボードに書き切れないほどたくさん出てきたんですよ」と、笑顔で活動について語る大田さん。

「日常生活だけでは、どうしても同じ人との付き合いが多くなってしまいます。子どもたちにはたくさんの経験をしてほしいですからいろいろな人と関わる機会を作りたいと思いました」

3人とも子どもを持つ母親であり、子を思う母親としても、何かをしたい、と思っているんですよ。

5月開催の「いっておかえり鹿野市」を鹿野ブランド創出研究会さんと共催したり、10月開催の「かのふるさとまつり」にブース出店したり、みんなで作った弁当を手に鹿野でピクニックをしたり、夏にデイキャンプをしたり……冬には、編み物教室も予定されているのだとか。子どもたちがやってみたいアイデアが、たくさん実現していっています。

子どもたちに、たくさんの素敵な体験をさせてあげたい……そんな思いから、鹿野で活動するKANOAの3人。

子どもたちのやりたいことをかなえていく3人に、心からエールを送りたいと思います!



○取材時も、子どもたちが焼き芋作りに大活躍!

発行 まちづくり応援団えーる（ https://yell.link/ ）



●いざ、見学に出発！

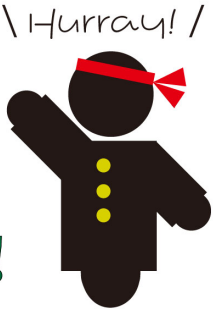


●まずは鹿野小・中学校を見学



●開放的な図書館です！

１１月２５日、ＫＡＮＯＡ企画の「秋の鹿野ワンデーツアー」に参加しました！
子育てに深く関わる鹿野小・中学校と、鹿野こども園を見学し、子育て環境の「いま」を知ることができました。



秋の鹿野 ワンデーツアー！



●中学校にもそのまま入れます



●鹿野こども園へ移動します



●鹿野こども園見学中



●あたたかい給食もいただきました